

‘04 冬山合宿報告書

八ヶ岳 渋の湯～天狗岳

04.12.29～12.31 CL板倉,竹内,藤田,亀山,町田,金子,芦田,山田



【冬山合宿を振り返り】

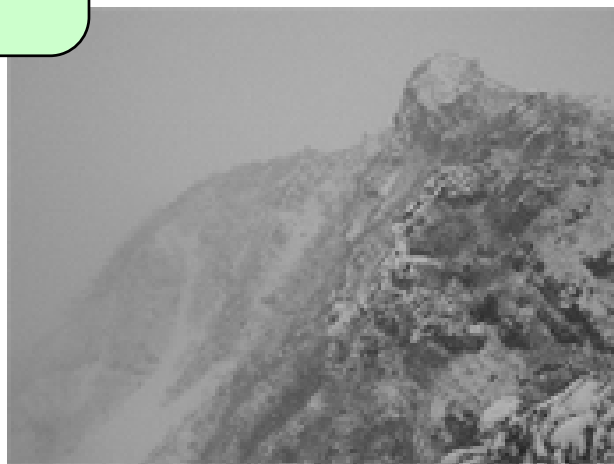
- (計画) 新人対象に山域を決め計画してきましたが、取組みや易さという点では、問題なかったが、少し物足りなさを感じるメンバーもいたかの知れない。
ただ、一級の寒さにも触れ、新人も冬山を体感できたのでは、ないだろうか。
来年に向けた、良いステップになったと思う
- (行動) 積雪もないことを危惧するくらいの量で、すんなり行けたのは、少々残念である。
反省点としては、個人装備の不備があった。アイゼンの調整不備であるが、雪上訓練で発覚したもので、その対応を大丈夫だろうということで、怠った。
今回、場所が危険な所であったら、動けず遭難にもつながるだけに、しっかり反省し、今後に対応していただきたい。
反対に、アイゼンの装着訓練を平地でしっかりやったものは、誰よりも早く装着でき頼もしく感じた。このような姿勢が何事も早い上達につばがる。
- (装備) GASのカートリッジ使用量については、正味L缶2本、S缶 - 3本半と人数・行動時間等により、ぎりぎりであった。冬の場合は雪を解かず量もある程度予測して、持っていく必要がある。
結論として、プラスL缶1本が必要であった
- (食料) 担当の工夫で、おいしいとん汁を冬山で食べることができた
山行形態によっては、このようなゆとりのある食料計画もありがたい

最後に、留守部員の方々をはじめ、差し入れをいただいた方々に、この場をお借りして御礼申し上げます。

(CL.板倉・記)

デンソー山岳部

概念図



【12/29】雪

7:40 渋の湯発

8:20-30 休

9:30-40 休

10:10 黒百合ヒュッテ着

11:10 黒百合ヒュッテ発

12:40-50 (西) 天狗岳着

14:15 黒百合ヒュッテ着

起きると、駐車場付近にはほとんど雪は見られない。粉雪がぱらぱらと降る。

各自したくをし、車の中で朝食をとる。

渋御殿湯で駐車代を払い、渋の湯の登山指導所の人に一声かけ、林の中のゆるい傾斜を上っていく。山道の雪の深さは10cmといったところか。

ところどころ石が出ている。唐沢鉱泉との分岐では標識を見落としそうになりながらも、間違えずに済む。2回の軽い休憩を経て、黒百合ヒュッテに着く。小屋備え付けの温度計を見ると-8 である。他にテントはない中に初めてのテントを設営。食糧や寝具や人間(町田さん・金子さん・亀山さん)をデポし、偵察のため天狗岳を目指す。5分ほどなだらかな木道を行くと中山峠に出る。そこからは徐々に上り坂が急になるが、周囲の山々を見ながらゆっくり行き、高度を稼ぐ。途中、大矢さんに会う。

アイゼンを履き、急峻な鎖場を登る。ほどなく天狗岳頂上に着く。風があり、天気は好くなりそうにないので、10分ほどで頂上を後にする。アイゼンが外れるアクシデントがあったりなどで、帰りも休み休み行く。1時間半ほどでテントに戻り、ミルクや焼酎のお湯割りを飲みながら暖をとる。夜は豚汁を食べて7時ごろに寝た。(記・芦田)



12 / 30 (木) アタック日 天候 雪

4:30に起床する。テントの内張りは、寒さのため吐息の水分が凍り付いていた。このような経験は初めてである。朝食後、6:15にベースキャンプを出発し、東天狗岳、西天狗岳、硫黄岳を目指す。昨晚のうちにかかなりの積雪があり、足場を確認するのが困難である。最初は樹林の中を進む。周りを木で囲まれているため、風も無く穏やかであるが、硫黄岳方面から強い風が吹く音が聞こえており、緊張感が高まってくる。

樹林帯を抜けて、開けた岩場に出ると、予想通り冷たい強風にさらされる。足場も悪くなってきたので、アイゼンを装着する。雪が厚く積もっているため、足場を作りながら進む。やがて、尾根に沿って傾斜を登り始める。周りに遮るものが無いため、冷たい風が非常に強く、顔の皮膚が引きちぎれそうなくらい冷たい。これほどの寒さを経験したのも初めてである。また、雪が厚く積もっているため、軽いラッセルをしながら登っていくが、足を取られるため、非常に登りにくい。しかし、手付かずのまっさらな雪をかき分けて進むのは気分がいい。険しい岩場をのぼり、やがて、東天狗岳の山頂に到着する(8:00)。周りに遮る物が皆無で、寒さが非常に厳しいので、目出帽を装着する。

リックサックや帽子が凍り付いており、まつ毛も凍っている。このような経験も初めてである。周りの景色は全く見えない。東天狗岳を後にして、西天狗岳を目指す。西天狗岳は全く見えず、足場も雪で埋まっているため、自分では進む方向が全く判らない。先頭の人に付いて尾根沿いを歩く。やがて、傾斜に差し掛かり、西天狗岳の山頂に到着する(8:40)。ここは風が穏やかだったので、休憩を取り、記念撮影を行った。西天狗岳を後にして硫黄岳を目指す。しかし、天候が回復しないため、明るいうちに帰ることが困難であると判断し、硫黄岳に到着する前に引き返した(9:15)。



復路は往路と同じルートを通り、10:20にベースキャンプに到着した。午後はいしばし歓談を楽しみ、17:00に夕食を取って、20:00に就寝した。

12 / 31 雪

ゆっくり黒百合ヒュッテを出発し、渋の湯へ下る。秘湯渋の湯につかり、体が解けるように感覚である。

帰りは、中央高速の大雪の洗礼を受け、長時間のドライブで、刈谷着。

